|  |
| --- |
| **高岡市民病院事業会計** |

高　岡　市　民　病　院　事　業　会　計

１　業務状況

令和２年度の延患者数は265,161人で、前年度に比べ35,858人（△11.9％）減少している。

そのうち入院患者数は94,307人で、前年度に比べ14,071人(△13.0％)減少し、外来患者数は170,854人で、前年度に比べ21,787人(△11.3％)減少している。

また、病床利用率は64.4％で、前年度に比べ9.4ポイント低下している。

⑴　業務実績



|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| (注)　１　病床利用率　＝ | 年延入院患者数 | ×100 |
| 年延病床数 |
| ２　職員数（各年度末現在）には、会計年度任用職員は含まれていない。 | | |
|  | | |
|  | | |
|  | | |

⑵　科別入院患者数比較表　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：人・％）

(注)　（　）内は、各年度の診療日数である。



年間入院患者数は延94,307人で、前年度に比べ14,071人(△13.0％)減少している。

　１日平均患者数は258.4人で、前年度に比べ37.7人減少している。１日平均患者数のうち

前年度に比べ増加した科は精神神経科、皮膚科、形成外科等で、減少した科は整形外科、内科、脳神経外科等である。

⑶　科別外来患者数比較表　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 （単位：人・％）

(注)　（　）内は、各年度の診療日数である。



年間外来患者数は延170,854人で、前年度に比べ21,787人(△11.3％)減少している。

１日平均患者数は703.1人で、前年度に比べ99.6人減少しており、リハビリテーション科、整形外科、内科をはじめ全ての科で減少している。

⑷　科別入院診療収入比較表

（単位：診療収入：千円・％、患者１人１日当たり診療収入：円）



年間入院診療収入は4,994,876千円で、前年度に比べ568,520千円(△10.2％)減少している。

患者１人１日当たりの診療収入は52,964円で、前年度に比べ1,631円増加している。前年度に比べ増加した科は脳神経外科、形成外科、リウマチ科等で、減少した科は麻酔科、胸部・血管外科、皮膚科等である。

⑸　科別外来診療収入比較表

（単位：診療収入：千円・％、患者１人１日当たり診療収入：円）



年間外来診療収入は2,007,957千円で、前年度に比べ80,545千円(△3.9％)減少している。

患者１人１日当たりの診療収入は11,752円で、前年度に比べ911円増加している。前年度に比べ増加した科は、放射線科、泌尿器科、外科等で、減少した科はリウマチ科、内科、神経内科等である。

⑹　手術及び検査状況　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 （単位：件・％）

(注)　Ｘ線件数のうちエコー件数は除く。



⑺　処方箋の状況　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 （単位：枚・％）



⑻　調剤の状況　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 （単位：件・％）



⑼　給食の状況　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 （単位：食・％）

(注)　特別食はエネルギーコントロール食、たんぱくコントロール食などである。



⑽　部門別100床当たり職員数　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：人・％）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| (注)　１　部門別100床当たり職員数　＝ | 部門別職員数 | ×100 |
| 病床数 |
| ２　医師職員数には、フルタイム会計年度任用職員を含む。  ３　事務部門の職員数は、診療情報管理士を含む。 | | |



　100床当たりの職員数は124.7人で、前年度に比べ0.1人（△0.1％）減少している。

⑾　職員（医師・看護部門）１人１日当たり患者数・診療収入比較表

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| （注）１　職員１人１日当たり患者数 ＝ | 年間延入院（又は外来）患者数 | |  |
| 年間延医師（又は看護部門）数 | |
| ２「年間延医師（又は看護部門）数」は、年度中において在籍した医師（フルタイム会計年度任用職員及びパートタイム会計年度任用職員を含む。）の延数〔又は看護部門（フルタイム会計年度任用職員及びパートタイム会計年度任用職員を含む。）の延数〕である。 | | | |
| ３　職員1人1日当たり診療収入　＝ | | 入院・外来診療収入 |  |
| 年間延医師（又は看護部門）数 |

（単位：人・円・％）



職員１人１日当たりの患者数は、医師部門の入院及び外来の合計人数が10.0人で、前年度に比べ1.6人（△13.8％）減少し、看護部門の入院及び外来の合計人数は1.7人で、前年度に比べ0.5人（△22.7％）減少している。

職員１人１日当たりの診療収入は、医師部門が264,029円で、前年度に比べ30,558円

(△10.4％)減少し､看護部門は45,922円で､前年度に比べ10,780円（△19.0％）減少している。

⑿　検査の状況

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| (注)　１　患者100人当たり検査件数　＝ | 年間検査件数 | ×100 |
| 年間延入院・外来患者数 |
| ２　検査技師１人当たり検査収入＝ | 入院・外来検査収入 |  |
| 検査技師数 |



患者100人当たりの検査件数は681.9件で、前年度に比べ50.8件(8.0％)増加している。

検査技師１人当たりの検査件数は90,412件で、前年度に比べ9,571件(△9.6％)、検査収入は26,154千円で、前年度に比べ2,934千円(△10.1％)減少している。

⒀　材料費



|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| (注)　１　薬品使用効率　＝ | 薬品収入 | ×100 |
| 薬品費 |
| ２　診療材料費には、医療消耗備品を含む。 | | |

ア　薬品費

薬品費は919,205千円で、前年度に比べ72,061千円（△7.3％）減少している。

患者１人１日当たりの薬品費は3,467円で、前年度に比べ174円（5.3％）増加している。

また、経常費用に占める割合は10.3％で、前年度に比べ0.9ポイント低下し、医業収益に対する割合は12.7％で、前年度に比べ0.2ポイント上昇している。

イ　診療材料費

診療材料費は645,627千円で、前年度に比べ85,280千円(△11.7％)減少している。

また、経常費用に占める割合は7.2％で、前年度に比べ1.0ポイント、医業収益に対する割合は8.9％で、前年度に比べ0.3ポイントそれぞれ低下している。

ウ　給食材料費

給食材料費は65,263千円で、前年度に比べ 3,952千円(△5.7％)減少している。

入院患者１人１日当たりの給食材料費は692円で、前年度に比べ53円(8.3％)増加し、給食収入は1,651円で、前年度に比べ97円(△5.5％)減少している。

また、経常費用に占める割合は0.7％で、前年度に比べ0.1ポイント低下し、医業収益に対する割合は0.9％で、前年度と同率である。

２　予算の執行状況

⑴　収益的収入及び支出（消費税込み）

各科目の予算の執行状況は、下表のとおりである。

　　　　　　　　 （単位：千円・％）



ア　収益的収入

予算額9,585,830千円に対し、決算額は9,764,902千円(仮受消費税15,843千円を

含む。）で、執行率101.9％、179,072千円の収入増である。

これは主に、医業収益が減少したものの、医業外収益が増加したことによるものである。

イ　収益的支出

予算額9,421,311千円に対し、決算額は9,137,934千円(仮払消費税211,745千円を

含む。）で、執行率97.0％、283,377千円の不用額が生じている。

これは主に、医業費用に不用額が生じたことによるものである。

収益的収入及び支出決算額の推移　　　　　　　　　　　　　　　　 　 (単位：百万円)

⑵　資本的収入及び支出(消費税込み）

各科目の予算の執行状況は、下表のとおりである。

　　　　　 (単位：千円・％)



ア　資本的収入

予算額670,185千円に対し、決算額は613,102千円で、執行率91.5％、57,083千円

の収入減である。

　これは主に、企業債が減少したことによるものである。

イ　資本的支出

予算額1,725,638千円に対し、決算額は1,619,808千円（仮払消費税47,916千円を

含む。）で、執行率93.9％、翌年度繰越額64,676千円を差し引くと41,154千円の不用額が生じている。

　これは主に、建設改良費に不用額が生じたことによるものである。

ウ　補てん財源

資本的収入額（翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額49,936千円を除く。）が資本的支出額に不足する額1,056,642千円は、過年度分及び当年度分損益勘定留保資金1,055,704千円並びに当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額938千円で補てんされている。

⑶　その他の事項

ア　企業債

起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、予算の定めに従って

行われていた。

イ　一時借入金

一時借入金の限度額は1,000,000千円であるが、借入額はその範囲内であった。

ウ　議会の議決を経なければ流用することのできない経費

この経費は職員給与費及び交際費であり、他の経費との間における流用はなかった。

エ　他会計からの補助金

一般会計からの補助金は、予算の範囲内であった。

オ　たな卸資産の購入状況

予算に定められたたな卸資産の購入限度額は1,199,824千円で、購入額はその範囲内であった。

企業債（借入額）、償還金（元金償還額）及び未償還金残高の推移　　　　(単位：百万円)

３　経営状況

経営状況は、下表のとおりである。

損益比較表　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：千円・％）



償却前純利益と純利益（純損失）の推移　　　　　　　　　　　　　　　　　　 （単位：百万円）

収益9,749,059千円に対し、費用は9,125,070千円で、623,989千円の当年度純利益が生じている。

前年度に比べ618,554千円（11,380.9％）の増益である。

⑴　収益の部

収益の内訳は、下表のとおりである。

収益内訳表　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：千円・％）



医業収益の推移　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　（単位：百万円）

ア　医業収益

医業収益は7,260,998千円で、前年度に比べ683,358千円(△8.6％)減少している。

これは主に、入院収益及び外来収益が減少したことによるものである。

イ　医業外収益

医業外収益は2,305,039千円で、前年度に比べ1,382,391千円（149.8％）増加している。

これは主に、新型コロナウイルス感染症患者受入病床確保に係る補助金等を計上したことによるものである。

ウ　特別利益

　　　　特別利益は183,022千円で、前年度に比べ皆増している。

これは、新型コロナウイルス感染症患者に対応する医療従事者への慰労金、激励金等を

収納したことによるものである。

⑵　費用の部

費用の内訳は、下表のとおりである。

費用内訳表　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：千円・％）



ア　医業費用

医業費用は8,437,225千円で、前年度に比べ89,111千円(1.1％)増加している。

これは主に、材料費が減少したものの、減価償却費及び経費が増加したことによるもの

である。

イ　医業外費用

医業外費用は504,832千円で、前年度に比べ8,037千円(△1.6％）減少している。

これは主に、支払利息が減少したことによるものである。

ウ　特別損失

特別損失は183,013千円で、前年度に比べ182,427千円(31,130.9％）増加している。これは、新型コロナウイルス感染症患者に対応する医療従事者への慰労金、激励

金等を支出したことによるものである。

４　財政状況

資産、負債及び資本の内訳は、下表のとおりである。

　主要勘定貸借比較表　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(単位：千円・％)



⑴　資産の部

資産の内訳は、下表のとおりである。

　資産内訳表　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(単位：千円・％）



ア　固定資産

固定資産は8,710,609千円で、前年度に比べ321,976千円(△3.6％)減少している。

これは主に、建物が減少したことによるものである。

イ 流動資産

流動資産は2,743,949千円で、前年度に比べ714,110千円(35.2％)増加している。

これは主に、現金及び預金が増加したことによるものである。

なお、医業未収金のうち、クレジットカード分は14,414千円で、前年度に比べ1,773千円(14.0％)増加している。

また、貯蔵品の状況について、たな卸検査を実施したところ、適正に管理されていた。

　有形固定資産明細書　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(単位：千円）



未収金の状況　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(単位：千円)



(注)１　令和２年度分医業未収金のうち、保険者負担分は2月調定分、3月調定分を含む（調定から2か月後に入金。）

　 ２ （　　）内は、クレジットカード分

⑵　負債及び資本の部

負債及び資本の内訳は、下表のとおりである。

　負債・資本内訳表　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(単位：千円・％）



　　ア　固定負債

　　　　固定負債は7,228,880千円で、前年度に比べ802,530千円（△10.0％）減少している。

これは、企業債が減少したことによるものである。

イ　流動負債

流動負債は2,400,299千円で、前年度に比べ225,724千円(10.4％)増加している。

これは主に、未払金が増加したことによるものである。

　　ウ　繰延収益

　　　　繰延収益は542,224千円で、前年度に比べ246,778千円（83.5％）増加している。

エ 資本金

資本金は11,818,650千円で、前年度に比べ98,173千円(0.8％)増加している。

オ 剰余金

剰余金は△10,535,495千円で、前年度に比べ623,989千円(5.6％)増加している。

これは、当年度未処理欠損金が減少したことによるものである。

５　他会計補助金等の状況

一般会計からの補助金等については、下表のとおりである。

(単位：千円・％）



他会計補助金等は1,165,461千円で、前年度に比べ121,756千円(11.7％)増加している。

このうち収益的収入は928,835千円で、前年度に比べ9,774千円（△1.0％）減少し、

資本的収入は236,626千円で、前年度に比べ131,530千円（125.2％）増加している。

６　キャッシュ・フロー計算書

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：円）



７　経営分析

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 分　析　項　目 | | | | | 令和  ２年度 | 令和  元年度 | | | 平成  30年度 | 全国平均  (令和元年度) | | | 算　　　　　式 | | | | | | | | | | | | | | |
| 構　成　比　率 | 固定資産  構成比率 | | ％ | | 76.0 | 81.7 | | | 77.9 | 75.1 | | |  | | 固　定　資　産 | | | | | | | | | ×100 | | | |
| 固定資産＋流動資産＋繰延資産 | | | | | | | | |
| 総資産の固定化の度合いを表すもので、比率の低い方が望ましい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 固定負債  構成比率 | | ％ | | 63.1 | 72.6 | | | 73.9 | 54.9 | | |  | | 固　定　負　債 | | | | | | | | | ×100 | | | |
| 負債・資本合計 | | | | | | | | |
| 固定負債と総資本との割合を表すもので、比率の低い方が望ましい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己資本  構成比率 | | ％ | | 15.9 | 7.7 | | | 6.5 | 30.9 | | |  | | 資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益 | | | | | | | | | ×100 | | | |
| 負債・資本合計 | | | | | | | | |
| 総資本のうち自己資本の占める割合を示したもので、比率の高い方が望ましい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 財　務　比　率 | 固定比率 | | ％ | | ― | ― | | | ― | 243.1 | | |  | | 固　定　資　産 | | | | | | | | | ×100 | | | |
| 資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益 | | | | | | | | |
| 固定資産と自己資本との割合で資本固定化の程度を示すものであり、100％以下であることが望ましい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 固定資産対  長期資本比率 | | ％ | | 96.2 | 101.6 | | | 96.9 | 87.5 | | |  | | 固　定　資　産 | | | | | | | | | ×100 | | | |
| 資本金＋剰余金＋評価差額等＋固定負債＋繰延収益 | | | | | | | | |
| 固定資産と長期資本との割合で資本固定化の程度を示すものであり、100％以下であることが望ましい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 流動比率 | | ％ | | 114.3 | 93.3 | | | 112.9 | 175.6 | | |  | | 流　動　資　産 | | | | | | | | | ×100 | | | |
| 流　動　負　債 | | | | | | | | |
| 企業の支払能力を見るもので、この比率が大きいほど支払能力が高いとされている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 回　　転　　率 | 自己資本  回転率 | | 回転 | | ― | ― | | | ― | 1.9 | | |  | | 医　業　収　益 | | | | | | | | | | | |  |
|  | |  | | 期首自己資本＋期末自己資本 | | | | | | | |  | |
| ２ | | | | | | | |
| 自己資本の働きを観察したもので、数値が大きいほど資本が効率的に使われていることを示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 流動資産  回転率 | | 回転 | | 3.0 | 3.4 | | | 3.1 | 2.4 | | | |  | |  | | 医　業　収　益 | | | | | | |  | |  |
|  | | 期首流動資産＋期末流動資産 | | | | | | |  | |  |
| ２ | | | | | | |  | |  |
| 流動資産の使用利用度を表すもので、数値が高いほど運用形態が良好なことを示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 未収金回転率 | | 回転 | | 5.8 | 6.4 | | | 6.2 | 5.9 | | |  | | 医　業　収　益 | | | | | | | | | | | |  |
|  | |  | | 期首未収金＋期末未収金 | | | | | | | |  | |  |
| ２ | | | | | | | |  | |  |
| 未収金の回収度を測定するもので、数値が高ければ未収金の回収速度が良好なことを示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 収　　益　　率 | 総収支比率 | | ％ | | 106.8 | 100.1 | | | 101.6 | 97.7 | | |  | | 総　　収　　益 | | | | | | | | | ×100 | | | |
| 総　　費　　用 | | | | | | | | |
| 総収益と総費用との割合で、営業活動の能率を表すものであり、比率の高い方が望ましい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 医業収支比率 | | ％ | | 86.0 | 95.1 | | | 97.0 | 91.2 | | |  | | 医　業　収　益 | | | | | | | | | ×100 | | | |
| 医　業　費　用 | | | | | | | | |
| 医業収益と医業費用との割合で営業活動の能率を表すものであり、この比率が高いほど経営状態が良好なことを示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総資本利益率 | | ％ | | 5.5 | 0.1 | | | 1.2 | 0.4 | | |  | | 当年度経常利益（損失） | | | | | | | | | | ×100 | | |
|  | |  | | 期首総資本＋期末総資本 | | | | |  | | |
| ２ | | | | |  | | |
| 経常利益と総資本との割合で、企業全体の収益性を表すものであり、比率の高い方が望ましい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分　析　項　目 | | | | | | | | 令和  ２年度 | | | 令和  元年度 | 平成  30年度 | | | | | | | 全国平均  (令和元年度) | 算　　　　　式 | | | | | | | |
| そ　　　　　の　　　　　他 | | 医業収益に対する  職員給与費の割合 | | | | | ％ | 60.0 | | | 53.2 | 52.8 | | | | | | | 54.0 |  | 職員給与費 | | ×100 | | | | |
| 医業収益 | |
| 医業収益に対する職員給与費の割合であり、比率が低ければ効率的な運営であることを示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 医業費用に対する  職員給与費の割合 | | | | | ％ | 51.6 | | | 50.6 | 51.2 | | | | | | | 47.3 |  | 職員給与費 | | ×100 | | | | |
| 医業費用 | |
| 医業費用に占める職員給与費の割合であり、比率が低ければ効率的な運営であることを示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 病床利用率 | | | | | ％ | 64.4 | | | 73.8 | 78.1 | | | | | | | 75.4 |  | 年延入院患者数 | | ×100 | | | | |
|  | | 一般病床 | | | 67.6 | | | 80.5 | 83.9 | | | | | | | 76.8 |
| 結核病床 | | | 28.6 | | | 0.4 | 10.7 | | | | | | | 6.3 |
| 年延病床数 | |
| 精神病床 | | | 59.0 | | | 55.9 | 65.7 | | | | | | | 62.4 |
| 感染症病床 | | | 4.9 | | | 0.4 | ― | | | | | | | 2.7 |
| ベッドがどれだけ利用されたかを示すものであり、比率が高ければ利用効率が良好なことを示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| １日平均  患者数 | | 入　院 | | | 人 | 258.4 | | | 296.1 | 313.4 | | | | | | | 336.0 |  | 年間延入院患者数 | | | | |  | |
| 入院診療日数 | | | | |
| 外　来 | | | 703.1 | | | 802.7 | 805.4 | | | | | | | 828.0 |  | 年間延外来患者数 | | | | |  | |
| 外来診療日数 | | | | |
| 1年間を通じての１日平均患者数であり、数値が高ければ収益面で良好なことを示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 患者１人１日当たり診療収入 | | | | | 円 | 26,410 | | | 25,420 | 25,640 | | | | | | | 30,849 |  | 入院・外来収益 | | | | |  | |
| 年間延入院・外来患者数 | | | | |
|  | | 入　院 | | | 52,964 | | | 51,333 | 50,616 | | | | | | | 55,798 |  | 入院収益 | | | | |  | |
| 年間延入院患者数 | | | | |
| 外　来 | | | 11,752 | | | 10,841 | 11,102 | | | | | | | 15,620 |  | 外来収益 | | | | |  | |
| 年間延外来患者数 | | | | |
| 患者１人１日当たりの平均の診療収入であり、数値が高ければ収益面で良好なことを示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 薬品使用効率 | | 投薬薬品 | | | ％ | 74.5 | | | 79.9 | 76.3 | | | | | | | 92.0 |  | 薬品収入(投薬分) | | ×100 | | | | |
| 投薬用薬品費 | |
| 注射薬品 | | | 78.9 | | | 73.3 | 73.9 | | | | | | | 92.7 |  | 薬品収入(注射分) | | ×100 | | | | |
| 注射用薬品費 | |
| 薬品費に対する薬品収入の割合を示すものであり、比率の100％を超える部分が利益の  大きさを示しており、この比率が高ければ収益面で良好なことを示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(注) １　各比率の算出方法及び計算の際に用いた基礎数値は、総務省自治財政局編地方公営企業年鑑の例による。

　　　２　全国平均は、総務省自治財政局編「令和元年度地方公営企業年鑑」の数値である。

　　　 　構成比率から収益率までの項目は、経営主体が市である公立病院の数値である。また、その他の項目は、400以上500未満のベッド数を所有する公立病院の数値である。

３　自己資本＝資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益

　　　４　総資本＝負債・資本合計